

町内の幼稚園と保育園・保育所の全年長児230人ほどと「あいさつの授業」を行いました。

主な活動は、道徳推進会議が作成したあいさつ絵本に、好みの色を塗って絵本を完成させることです。

はじめに「どんな時に、どんなあいさつをしますか？」をみんなで考えました。さすがに年長児はよく知っています。一人が「おはようございます。」と言うと、他の子が「おはようございます。」と応えます。「おやすみなさい。」まで、しっかりとあいさつを言うことが出来ました。微笑ましかったのは「ただいま」と言った時に返ってきたあいさつが「ただいま」だったことです。「あれ？おかしくない？」と問い直しますと「おかえり!」「おかえりなさい!」など、正しいあいさつが即座に返ってきました。

この授業のねらいは、「気持ちを込めたあいさつをすれば、ちゃんとその気持ちは相手に伝わることに気付く。」ことでした。年長児には少し難しいかなと思いましたが、授業を行ってみると多くの園児がねらい通りに気持ちを込めたあいさつができるようになりました。そして、あいさつに込められた相手の気持ちを感じ取る年長児もいました。

素晴らしい姿です。

あいさつ絵本は12ページほどあります。1時間ほどの授業では全部のページに、色を塗ることはできません。そこで、塗り残したページは宿題にしました。家に帰ってから、この絵本をきっかけにして、あいさつを家族で話題にしていただけたら幸いです。そんな気持ちで授業を終えました。

なお、あいさつ絵本は少し残っていますので、希望される方は中央公民館までご連絡ください。



きれいに塗れたよ

【問 合 先】中央公民館 ☎388-3231

かきまつの民話「昔むかし」

畑つなぎ ⑤

あつちでもこつちでも大きな涙が光っていた。死ぬことを知っていて村のために願い出でくたさる庄屋さま、わたしらの方で畑をつないでみせます。このわたしたちの手で、庄屋さまをみつめたまま、村人はうなずいた。



はたつづく

あれから半年後、四人の庄屋は死罪となった。だが、人々は、きょうもあぜ道をはいうように、ひたすら土をはこび続けた。

兵蔵は、倒れそうなかからだをささえながら、人々をはげまし続けた。一日に三度も四度も芋虫のようにあぜを用心深くはいながら土をはこぶ村人もいた。

畑と畑は、すこしずつつながっていった。村人は、できあがった畑の堤を『はたつづく』とよびあい、合いことばにしながら土をはこび続けた。ところがある日、加納領の人々が「笠松の百姓らは、勝手に堤をつくりおる。これはお殿さまにはむかうことだ。」と代官所へ申し出たのである。このころは、堤をつくるにも木を一本移しかえるにも代官所のお許しがいったのである。

(つづく)

※かきまつ民話「昔むかし」は昭和54年に発行されました。中央公民館 松枝公民館 総合会館でご覧いただけます。